



校長室だより

令和5年度
9月12日
NO. 22

「仲間」と「自然」と共に暮らした2日間 山の学習

川の水の冷たさ、足裏の川底の感触、水面に浮くカヌーの乗り心地、ドラム缶風呂の湯のぬくもり、みんなで食べるバーベキューの味、炊飯活動やキャンプファイヤーで感じる火の熱量、夜のテントのざら板の床の寝心地、隣にいる友達の寝息、暗闇の広がる山や山道の不安、ゲームもテレビもないテント内に聞こえる友達の笑い声、朝の山の空気の涼しさ、服や髪の毛に染み付いた煙の臭い…。少年自然の家は、秦梨小にとっては庭のようなものですが、そこには秦梨小にはない空間や体験がたくさんありました。天気など何が起こるか分からない中で、予定通りいかないこともあります。全てが初めての経験であると考えれば、予定通りのことなどなかったのかもしれませんが、そしてそれこそ「自然」なのでしょう。チャイムもなく、冷房もなく、時間割もない、この環境=「自然」は危険とも隣り合わせの側面もありますが、だからこそ、自分自身で、仲間たちと考え、行動することが必要になります。そんな普段味わうことのできない体験が、山の学習の良さであると感じました。



9月6, 7日に、5, 6年生で出かけた山の学習、1日目夜の班長会で出た「みんな元気です」「しおりを見て、自分たちで動けた」「移動など、素早く動けた」「片付けをみんなで協力してできた」「自分の役割をきちっと果たすことができた」の言葉。楽しい活動の中でも、それぞれが、みんなで活動するということをしっかりと意識して行動できたことは、秦梨っ子として、誇れることでした。また、山の家の方からは、「秦梨小さんとは一番打ち合わせをした」「秦梨小さんは、本当にいろんなことに挑戦した」と言われました。子供たちのこれまでの準備はもちろん、計画してきた担任の先生方、川遊びでは安全を見守ってくださり、キャンプファイヤーでは場を盛り上げてくれた保護者の方々や学校の先生方のおかげで楽しく、思い出に残る山の学習になりました。



昨今のアウトドアブームで、キャンプそのものの認知度や体験は広がりつつありますが、自ら自然に触れ、親元を離れ自分たちだけで生活し、仲間と協力して事を行う体験は、価値のあることと言えます。小学校の指導要領で言われる「生きる力」を、子供たちはまさにここでも身に付けたと言えるでしょう。



そしてそれは、答えが一つではない、それぞれの子供たちにとってのそれぞれの課題解決や楽しみを獲得できる道筋であったと言えます。そこでしか得られないこと、その子でしか見つけられないこと、そんな体験を今後も大事にして行きたいと考えます。